食品安全委員会の運営について（平成27年7月～9月）

1. 食品安全委員会の開催

7月：第568回～第571回

(1) 食品健康影響評価の要請案件

遺伝子組換え食品等 （2品目1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・ CYS-No.1株を利用して生産されたL-システイン塩酸塩 ・ 除草剤グリホサート耐性アルファルファJ101系統及び低リグニンアルファルファKK179系統を掛け合わせた品種 ・ 飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和51年農林省令第35号）の改正等について
-----------------------	---

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件

農薬（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ オキサチアピプロリン <u>ADIを3.4 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・ フルアジホップ <u>ADIを0.0044 mg/kg 体重/日、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.02mg/kg 体重と設定し、一般の集団に対するARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・ ベンチアバリカルブイソプロピル <u>ADIを0.069 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・ チアメトキサム <u>ADIを0.018 mg/kg 体重/日、ARfDを0.5 mg/kg 体重と設定。</u>
農薬及び動物用医薬品 （1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジフルベンズロン <u>ADIを0.02 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u>
動物用医薬品（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンフロキサシン <u>ADIを0.002 mg/kg 体重/日と設定。</u> ・ 2-10-性腺刺激ホルモン放出ホルモン類縁体・ジフテリアトキソイド結合物を有効成分とする牛の注射剤（ポプリバ） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u>
動物用医薬品及び飼料添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ モネンシン <u>ADIを0.003 mg/kg 体重/日と設定。また、モネンシンナトリウムについては、飼料添加物として適切に使用される限りにおいて、食品を介してヒトの健康に影響を与える可能性は無</u>

	<u>視できると考えられる。</u>
器具・容器包装(1品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリエチレンナフタレート (PEN) を主成分とする合成樹脂製の器具又は容器包装 <u>食品衛生法に基づく個別規格は設定されていない現状を踏まえ、従来からの使用方法の変更や使用量の増加等がない限りにおいて、規格を新たに設定しても健康影響が生ずるリスクが高まるとは考えられない。</u>
プリオン (1案件)	<ul style="list-style-type: none"> ・デンマークから輸入される牛肉及び牛の内臓 <u>月齢制限とSRMの範囲について、リスクの差は、あったとしても非常に小さく、人への健康影響は無視できる。</u>
遺伝子組換え食品等 (1品目 1案件)	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令 (昭和51年農林省令第35号) の改正等について <u>本改正は、組換えDNA技術によって得られた微生物を利用して製造された食品添加物と同様の安全性の確認が行われることから、適切に基準が適用される限りにおいては、当該飼料添加物を摂取した家畜に由来する畜産物が人の健康に及ぼす影響が変わるものではないと考えられ、食品安全基本法第11条第1項第2号のヒトの健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当するものと認められる。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・DP-No. 2株及びGG-No. 1株を利用して生産されたグルタミルバリングリシン <u>『遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方』に基づき、安全性が確認されたと判断。</u>
薬剤耐性菌 (1品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ツラスロマイシンを有効成分とする牛の注射剤 (ドラクシンC) <u>評価対象動物用医薬品が、牛に使用された結果としてハザードが選択され、牛由来の畜産食品を介してヒトがハザードに暴露され、ヒト用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できないが、リスクの程度は低度であると考えた。</u>

(3) その他

- ・ 山口大臣による挨拶
- ・ 委員紹介、委員長の選出及び委員長代理の指名
- ・ 食品安全関係情報 (6月6日～6月19日収集分、6月20日～7月3日収集分) について報告
- ・ 「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等 (平成27年6月分) について報告

8月：第572回～第574回

(1) 食品健康影響評価の要請案件等

添加物（1品目）	・亜塩素酸ナトリウム
農薬（4品目）	・イミシアホス ・サフルフェナシル ・チフルザミド ・レピメクチン
遺伝子組換え食品等（1品目）	・DP-No. 2株を利用して生産されたアスパルテーム

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件等

農薬（4品目）	<p>・テトラコナゾール <u>ADIを0.004 mg/kg 体重/日、ARfDを0.05 mg/kg 体重と設定。</u></p> <p>・トリフロキシストロビン <u>ADIを0.05 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></p> <p>・フェンヘキサミド <u>ADIを0.17 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></p> <p>・ベンゾフェナップ <u>ADIを0.002 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></p>
動物用医薬品（3品目）	<p>・フルニキシシ <u>ADIを0.0098 mg/kg 体重/日と設定。</u></p> <p>・フロルフエニコール <u>ADIを0.01 mg/kg 体重/日と設定。</u></p> <p>・ツラスロマイシン <u>ADIを0.015 mg/kg 体重/日と設定。</u></p>
特定保健用食品（1品目）	<p>・大麦若葉粉末 <u>提出された資料に基づく限りにおいて安全性に問題はないと判断。</u></p>

(3) その他

- ・食品安全関係情報（7月4日～7月16日収集分）について報告
- ・「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成27年7月分）について報告

9月：第575回～第578回

(1) 食品健康影響評価の要請案件等

農薬（6品目）	<p>(一括削除)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-アミノピリジン ・クロロベンジレート ・ジノセブ ・チオメトン ・チフェンスルフロン ・トリクロロ酢酸ナトリウム塩 (TCA)
動物用医薬品（1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準にプロチゾラム試験法を追加すること

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件等

添加物（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・亜セレン酸ナトリウム <u>セレンに関する「0か月児～2歳児までの摂取量の上限値」を $5.9 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日（セレンとして）と設定。また、提出された推定一日摂取量は「0か月児～2歳児までの摂取量の上限値」を超過する可能性があることから、リスク管理機関においては、亜セレン酸ナトリウムの新規指定に当たり、<u>使用基準（案）を含むリスク管理措置についてあらためて検討する必要がある。</u></u> ・硫酸亜鉛 <u>亜鉛の摂取量に関する上限値を $0.63 \text{mg}/\text{kg}$ 体重/日（亜鉛として）と設定。</u>
農薬（10品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・テブコナゾール <u>ADIを $0.029 \text{mg}/\text{kg}$ 体重/日、ARfDを $0.3 \text{mg}/\text{kg}$ 体重と設定。</u> ・フルオピラム <u>ADIを $0.012 \text{mg}/\text{kg}$ 体重/日、ARfDを $0.5 \text{mg}/\text{kg}$ 体重と設定。</u> ・プロメトリン <u>ADIを $0.03 \text{mg}/\text{kg}$ 体重/日、ARfDを $1.5 \text{mg}/\text{kg}$ 体重と設定。</u> ・ベンゾベンジフルピル <u>ADIを $0.012 \text{mg}/\text{kg}$ 体重/日、ARfDを $0.1 \text{mg}/\text{kg}$ 体重と設定。</u> ・4-アミノピリジン ・クロロベンジレート ・ジノセブ ・チオメトン ・チフェンスルフロン ・トリクロロ酢酸ナトリウム塩 (TCA) <p>本品目が国内外において、食用及び飼料の用に供される農作</p>

	<p><u>物並びに食用に供される動物及び食用に供される乳、卵等の生産物を生産している動物に使用されていないこと又は本品目が国内において農作物及び動物に使用されておらず、かつ本品目が使用された農作物及び動物の肉、乳その他の食用に供される生産物が輸入されていないことを前提とした場合、当該残留基準の削除については、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当する。</u></p>
<p>動物用医薬品 (6品目3案件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>食品衛生法第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準にプロチゾラム試験法を追加すること本件については、新たに開発された試験法を追加するものであり、規格そのものを変えるわけではないことから、食品安全基本法第11条第1項第1号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当</u> • <u>動物用ワクチンに添加剤として使用する成分(12成分)12成分については、動物用ワクチンの添加剤として使用される限りにおいて、人への健康影響は無視できると考えられることから、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかである時に該当。</u> • <u>エンフロキサシンを有効成分とする豚の注射剤(バイトリルワンジェクト注射液)本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できるものと考えられる。</u> • <u>フルアズロンADIを0.043 mg/kg 体重/日と設定。</u> • <u>フルメトリンADIを0.0039 mg/kg 体重/日と設定。</u> • <u>ツラスロマイシンを有効成分とする牛の注射剤(ドラクシンC)本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u> • <u>アルベンダゾールアルベンダゾールのADIを0.01 mg/kg 体重/日、アルベンダゾール及びアルベンダゾールスルホキシドのグループADIを0.01 mg/kg 体重/日と設定する。</u> • <u>フロルフェニコール及びフルニキシメグルミンを有効成分とする牛の注射剤(レスフロール)本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒ</u>

トの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。

- ・動物用ワクチンに添加剤として使用する成分（2成分）
2成分については、動物用ワクチンの添加剤として使用される限りにおいて、人への健康影響は無視できると考えられることから、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかである時に該当。

(3) その他

- ・食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題（平成28年度）を決定
- ・平成26年度終了食品健康影響評価技術研究課題の事後評価結果を決定
- ・食品安全モニターからの随時報告（平成26年10月～平成27年3月分）について報告
- ・食品安全関係情報（7月17日～8月7日収集分、8月8日～8月28日収集分）について報告
- ・「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成27年8月分）について報告

2. 専門調査会の運営

調査会名	開催回数	調査審議案件
添加物 専門調査会	6回	<ul style="list-style-type: none"> ・次亜臭素酸水 ・<i>Aspergillus oryzae</i> NZYM-SP株を用いて生産されたアスパラギナーゼ ・亜塩素酸ナトリウム
農薬 幹事会	3回	<ul style="list-style-type: none"> ・テブコナゾール ・ビシクロピロン ・フルオピラム ・プロメトリン ・ベンゾペンジフルピル ・チアメトキサム ・ジフルベンズロン ・1,3-ジクロロプロペン ・ヘキサコナゾール ・メパニピリム ・イソピラザム ・キノメチオナート
評価第一部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・メパニピリム ・イミシアホス ・サフルフェナシル
評価第二部会	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・アバメクチン ・シフルメトフェン
評価第三部会	3回	<ul style="list-style-type: none"> ・チフェンスルフロンメチル ・フルオピコリド ・プロチオコナゾール
評価第四部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・イソピラザム ・キノメチオナート ・フルエンズルホン
動物用医薬品	5回	<ul style="list-style-type: none"> ・アルベンダゾール ・ワクチン添加剤 ・アルトレノゲスト
器具・容器包装	1回	・フタル酸ジイソノニル (DINP)
微生物・ウイルス	2回	・クドア属粘液胞子虫
プリオン	3回	・めん羊及び山羊の牛海綿状脳症 (BSE) 対策の見直し
遺伝子組換え食品等	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・CYS-No. 1株を利用して生産されたL-システイン塩酸塩 ・除草剤グリホサート耐性アルファルファ J101系統及び低リグニンアルファルファ KK179系統を掛け合わせた品種 ・DP-No. 2株を利用して生産されたアスパルテーム ・アクリルアミド産生低減及び打撲黒斑低減ジャガイモ (SPS-00E12-8) (食品・飼料)
肥料・飼料等	3回	・ナナフロシン

(薬剤耐性菌WGを除く。)		<ul style="list-style-type: none"> ・ロメフロキサシン ・アモキシシリン
薬剤耐性菌WG (肥料・飼料等／微生物・ウイルス合同)	1回	・牛及び豚に使用するフロルフェニコール製剤に係る薬剤耐性菌
いわゆる「健康食品」検討WG	1回	・「健康食品」に関する課題について

3. 意見交換会の開催等

(1) 意見交換会等（全5回、うち委員1回）

開催日	開催地	意見交換会名	共催団体
7/27	岡山県	食品安全委員会in岡山県 ～食品添加物についてみんなで話そう!考えよう!～	岡山県
8/7	広島県	食品安全委員会in呉市 学校教育関係者を対象とした意見交換会～食のリスク教育における基礎知識～	呉市
8/21	東京都	学校教育関係者を対象とした食品安全に関する 研修会 <u>*吉田委員、石井委員、村田委員</u>	東京都教育委員会
8/26	愛媛県	食品安全委員会in松山市 子供たちへ伝える食品安全～食品添加物を題材として～	松山市
9/4	兵庫県	食品安全委員会in尼崎市 小学校等の食に関する教育関係者を対象とした意見交換会～食品の安全性について～	尼崎市

(2) 講師派遣（全9回、うち委員3回）

開催日	開催地	講演会名	依頼元
7/14 ～15	熊本県	平成27年度ジュニア食品安全ゼミナール及び学校関係者との意見交換会（天草地域開催）	熊本県
7/24	富山県	食品安全フォーラムinとやま <u>*石井委員</u>	富山県
7/30	東京都	平成27年度農業政策短期特別研修	政策研究大学院大学
8/6	東京都	食品添加物技術フォーラム	一般社団法人日本食品添加物協会
8/19 ～20	北海道	北海道農政事務所職員研修及び消費者セミナー	農林水産省北海道農政事務所
8/20	愛知県	食品衛生月間特別講演会 <u>*石井委員</u>	岡崎市
9/8	長野県	食品衛生ミニシンポジウム	長野市保健所・長野市食品衛生協会

9/11	山形県	日本マイコトキシン学会 <u>*熊谷委員</u>	日本マイコトキシン学会
9/15	山梨県	平成27年度食の安全・食育推進大会	山梨県

(3)「食品を科学するーリスクアナリシス（分析）連続講座ー」

開催日	講座テーマ	講師
7/23	誰もが食べている化学物質パート2 ～微生物や酵素による化学反応～	村田委員
9/3	食べ物のおいしさと安全・安心 ～新鮮なものは本当に安全？～	石井委員